

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
<input type="checkbox"/> 2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
<input type="checkbox"/> 3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
<input type="checkbox"/> 5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	年々高齢化して外に出かけることが困難になってきているが、少しずつでも出かけて交流できるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域での勉強会や話し合いがあれば参加できるよう民生委員や町内役員の方に声かけはしている。施設見学や電話等で認知症の相談、介護保険の利用方法などの相談を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義目的を職員全員に説明し、全員で評価にとり組み、サービス向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話し合われた内容は、必ず会議等でスタッフに伝え、特に家族から出された意見は、すぐに生活の中に取り入れるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日ごろから電話やメール、直接出向いての話し合いなど、気兼ねなく行き来できるようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居やその家族に対し、対象となるような事案があり、相談を行った。それぞれ理解があり解決できたが、今後も同じように支援していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞やテレビなど各マスコミで多く取り上げられており、その都度定期の会議等の話題に取り入れ、虐待の意味についても深く考えて行動するようにしている。	○	身体的虐待だけでなく言葉の虐待にも気を配り、今後も発生防止に努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約時には十分な時間をかけ、ホームの方針や医療体制、重度化したときの対応など説明し理解を頂いている。またその後も不安な事がないか声をかけている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>今回言葉使いや態度について苦情が寄せられた。その意見の意味を全員で理解し、今後のより良い運営に活かせるよう話し合った。</p>	○	<p>今後も推進会議や面会時などを利用したり、定期的な手紙などで意見の収集に努めたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>面会にこられる方はその時に、また遠方に居られる方には電話で近況をお知らせしている。健康面に関してはその都度経過を詳しく報告したり、金銭管理は定期的を確認してもらっている。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情を貴重な意見として今後の適正な運営に活かしていきたい。また引き続き推進会議への参加を呼びかけたり、面会時などで積極的に不安なことがないか働きかけていきたい。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>職員会議や日頃のミーティング等で意見や要望を聞いているが、さらに意見収集を行い、適正運営に反映できるようにしたい。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>入居者の体調不良や怪我により、介護が集中することがあり、職員の勤務時間を変更して入居者の生活への影響が少なくなるようにした。</p>	○	<p>今後ますます重度かして対応に困ることが予想されるが、ユニットごとにこだわることなく、柔軟な姿勢で対応していきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>各ユニットごとにスタッフを固定し、やむおえず退職等で移動がある場合は十分な引継ぎ期間をとり、利用者への負担が少なくなるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や計画担当者は研修の機会があるが、職員の研修の場が少ない。</p>	○	<p>スタッフの調整がうまく行かずになかなか研修の機会が少ないが、グループホーム協会や各団体で開催される研修に段階的に参加できるようにしたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>直接施設に行き来する機会はないが、日頃から電話で連絡を取り合い、意見交換を行っている。</p>	○	<p>保険者により12月に意見交換ができる場が持たれた。今後もこのような場所があれば積極的に参加したい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務希望などできるだけ取り入れて、働きやすい環境に勤めている。また日頃気づいた事に気兼ねなく意見が出し合えるように話し合っている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得の案内など配布したり、機関紙を購入して、各自が知識習得ができるようにしている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人自身から意見を直接言われる方は少ないので、生活歴や表情言葉使いなどから、意向を汲み取れるよう努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>電話や入居相談に訪れる家族など、介護保険制度そのものが理解できていない方が多く、わかりやすく説明している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や医療機関、今まで利用していたサービス機関等とも連絡を取り、適切なサービスが使えるようアドバイスしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの方が病院や施設からの入居であり、事前に施設見学をされる方は少なくなったが、家族の協力を頂きながらわかりやすい言葉を使ったり、馴染みの家具を持ちこんだり、生活習慣をできるだけ崩さないよう努力している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症はあっても、人生の先輩として常に学ぶ姿勢を失わず、残された能力が少しでも発揮出来るよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々変わっていく状況を出来るだけ家族にもお知らせして、家族と共に考えながら生活を続けていけるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状況を随時お知らせし、落ち着きがなくなったときなど外泊や面会をお願いしたり、共に支えあう良い関係づくりができるよう心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた理美容や病院など、馴染みの関係がなくならないよう、家族の協力もいただきながら、継続出来るよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が若い頃からの知り合いで、逆にトラブルになることはあるが、職員が調整役になって、円滑な関係づくりが出来るよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたら定期的にお見舞いに行ったり、その後の相談にのったりしている。	○	地域における施設として必要な思いであり、今後の施設運営のためにも大切にしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や、上手く表現できない方はしぐさなどで、本人の意向の把握ができるよう努めている。また家族へも意向を伝え、思いを共有できるよう援助している。	○	目の前の行動にとらわれ真の意向をくみ取れないこともあるが、情報を共有化して、全職員が同じ思い出で援助出来るよう努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、面会時などに情報収集を行い、本人にとって何が大切なのかを把握できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人や家族から情報をよく聞き、一人一人の生活リズムを把握して、その人らしい生活ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向、主治医の意見、スタッフの気づきなど意見を出し合い、意向を反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて定期的に見直しを行い、急変時や病状変化等状況の変化に合わせて随時見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録のとり方を個別の生活がわかりやすい方法に改め、より本人の情報を理解した介護計画の作成に取り組んでいる。	○	状況は日々変化しており、さらに詳しく観察して、的確なサービス提供が出来るよう努めている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年々重度化して入院のリスクが高くなっているが、出来るだけ家族の負担を軽減し、環境変化少なくなるよう援助している。	○	家族は重度化した場合を常に心配しており、出来るだけ希望に添えるようにしたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に民生委員、集落代表、消防署、駐在所のおまわりさんなどいろいろな方に参加して頂き、意見交換に努めている。また施設内で小学生の授業を行ったり、お礼に出かけたりしている。	○	名前も告げずに雑巾や手芸品届けてくださったり、季節の野菜を持ってこられる方もおり、今後も無理のない程度に交流が続けられるようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	出かけられない方は訪問の理美容を利用し、体調に応じて馴染みの美容サービスが受けられるよう援助している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議出席して、地域における高齢者保護対応についてアドバイスもらったことはあるが、その後は直接介護保険課と話し合っているので協働する場がない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一回の定期往診はあるが、家族や本人の希望に応じて専門医や他の病院が受診できるよう援助している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の状態に応じて専門医を受診したり、内服薬の継続が出来るよう援助している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に対応できるようにしている。看護職員がいない時でも、病院へ連絡したらすぐに的確な指示をもらえ、記録と申し送りでも確実な対応ができるようにしている。	○	さらに詳しい知識は、その都度医師や薬剤師から支援して貰っている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は日常生活状況を詳しく伝えて、早期退院ができるよう協力している。また本人の身体状況に応じてスタッフがお見舞いに行き、退院後の相談に応じている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常日頃から重度化した場合の意向をお聞きしている。また本人家族と十分な話し合いを行い、状態変化に伴って援助できるようにしている。	○	ターミナルケアの経験が一回しかないので、全職員が不安を持っているが、出来るだけ希望の生活が続けられようになりたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	最終看取りまで行う機会があり、事業所でできることできないことを把握して、状態変化に応じて、的確に対応できるようにしている。	○	年々重度化し、ほとんどの家族が最終看取りまで希望しており、希望に添えるよう準備していきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時や他の施設に移るときは情報提供書を作成し、不安が少しでも少なくなるようにしている。またなじみのスタッフが面会に行き、不安軽減に努めている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の理解に努め、情報は家族以外は口外しないように、全スタッフが認識している。しかし親しい言葉使いをしていても荒い言葉にとられてしまうことがあった。	○ 親しくしている間柄でも常に敬いの気持ちを持って、優しい言葉使いが出来るよう努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で本人の意向に耳を傾け、またうまく表現できない方は表情を読み取り、できるだけ自分で決めていたでけるよう心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、リズムが崩れないよう見守りながら穏やかに過ごせるようにしている。	○ 特に朝はゆっくり寝ていたい方など、それぞれに合わせた援助をおこなっている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は本人家族の意向をお聞きしてすすめている。理美容は希望により家族が行ったり、昔からの馴染みの店がある方は自由に選んで頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は事前に好みを把握しており、利用者に「この材料で何がいいですか」などお聞きしながら、希望に添えるようにしている。また畑の野菜づくり、食材の下ごしらえやとりわけなど、その方の能力に合わせて参加できるようにしている。	○ 極端な偏食でなかなか一緒に料理を食べられない方がいるが、家族の協力を頂きながら、できるだけ希望に添えるようにしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握して、主治医に相談しながらなるべく本人の希望に沿った援助ができるようにしている。	○ お菓子類が大好きな方がおり、好みの物が食べられるよう個別に対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを記録、把握した本人の希望や能力に合わせた排泄用品を使用している。失敗しても羞恥心に配慮した声かけ対応をしている。	○	季節やその日の体調に合わせて、適切な排泄用品を使用し、清潔な環境で排泄が出来る様にして、家族の負担も少しでも軽くなるよう援助している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調に沿って行い、嫌がる方は無理せず時間をずらしたり、困難なときは清拭や足浴など行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は散歩や会話、家事への参加など出来るだけ活動できるようにしている。また本人の希望や体調に合わせて、休息をとれるようにしている。また怪我や精神的な不安から居室で眠れない方は、近くで安心できるよう、ホールで横になれるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	高齢化して徐々に重度化してきたが、その方のできる事、得意な事などを見極め、洗濯物たたみ、買い物、歌を唄ったり、各自の能力が発揮できるようにしている。また季節ごとにドライブを行い、季節を肌で感じて気晴らしができるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自の能力に応じてお金を持つ安心感を大切にして、管理できない方はこちらで管理して、個人別に台帳を作りチェックしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩や買い物に出かけたり、近くの公園へミニドライブを行ったりするが、以前より頻度が少なくなっている。	○	重度化してほとんどマンツーマンの対応が必要になっているので家族の援助も頂きながら、外出の機会ができるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りや買い物など、家族の協力をもらいながら実現できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやり取りは、他の方に配慮して各居室でできるようにしている。また手紙や贈り物などがあった時は直ぐにお礼の電話をして、親しい関係が続けられるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に決まっておらず、自由に面会していただいている。また少し離れた場所を用意するなど他の利用者に遠慮することなく、ゆっくり過ごせてもらえるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より、身体拘束の無い施設づくりを目指し、実行しており、日々の生活の中でもその弊害について話し合い、共同認識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、出入りがある時は自然な声かけで対応できるようにしている。また落ち着きの無い時は、散歩やドライブで気分転換を図ったり、地域の方々にも声かけして見守りできるようにしている。	○	夕方など家に帰りたくなるときは一緒に歩いたり、車でいっしょに家まで行ったり、鍵をかけることへの弊害を十分認識して、日頃のケアに生かしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは利用者全員の見守りができるよう常に気配りを怠らないようにしている。また転倒の危険性が大きい方には足元にセンサーを設置して、いち早く対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみが使える方は自分で持っていたり、消毒薬など薬品類は誤飲の恐れがないよう管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一事故が起きた時は速やかに報告書を作成し、スタッフ全員に周知し再発防止を図っている。服薬に対しては誤薬のないよう声を掛け合って事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応マニュアルを作成し、緊急時はクリニックに連絡すれば直ぐに対応できるよう体制作りを行っている。	○	特に夜間の対応には不安を持っている職員がいるが、お互いに情報を共有して不安解消に努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下定期的に訓練を行い、推進会議などで地域の方にも内情を説明して、緊急時は協力をもらえるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとり起こりうるリスクについてはその都度家族と話し合い、対応策についても一緒に考え、理解してもらっている。	○	リスクをあまりに過剰に考えてしまう家族もいるが、不安感をなくしながら一緒に生活を支えていく姿勢を大事にしていきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調に変化があったときは、直ぐに法人内の医師や看護婦に連絡して指示をもらっている。また結果は連絡帳に記載し、情報を共有して健康管理に役立てている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬効能書をファイルにして、いつでも効能や注意事項が把握できるようにしている。また新しい薬や変更があったときは必ず説明書で確認するようにしている。	○	不明なときは薬剤師にわかりやすく説明してもらっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤服用時はその副作用を理解し、過剰にならないよう医師や看護婦に指示をもらいながら多めに水分を摂ったり、できるだけ身体を動かすよう努めている。また日頃から水分摂取や便の形状などに注意を払い、薬だけに頼らない努力をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの能力に応じて口腔ケアを援助している。義歯消毒は定期的に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立を見てもらい、カロリー計算をしてアドバイスをもらっている。形態は咀嚼能力に応じて、お粥やキザミ食を提供している。また毎日の摂取量を記録して健康管理に役立てている。	○	極端な偏食の方がいるが、医師や家族と連絡を取りながら健康観察を行っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルを作成したり、玄関入り口に注意書きをはり、出入りする方全員に協力を呼びかけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や冷蔵庫など定期的に掃除や消毒をおこない、食器は日光消毒を行うなど衛生管理に努めている。また季節に応じてなるべく加熱調理したものをお出ししている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周りを田園風景に囲まれ、玄関先に花や木が植えてあり、親しみやすく入りやすいようにしている。また玄関口にベンチを置き、外気浴やおしゃべりが楽しめるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や照明は利用者の希望に応じて調整し、過しやすくない環境作りを行い、窓はできるだけ開放して自然な換気が出来る様にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを置いたり、ホールにソファを置いてお一人で過したり、気の合った同士で過せるように工夫している。	○	ホールで休む時はつい立てを使ってプライバシー保護をおこなっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い出のある品物や家具を持ち込んでもらい、それぞれ使いやすい場所に設置している。また居室内のボードに思い出の写真等を自由に貼ってその人らしい空間ができるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行い、入居者の希望を聞きながら、温度管理を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使う頻度の高かったトイレや洗面所は手すりを完備できた。	○	予算的なこともあり十分ではないが、身体状況に応じて無理のない対応ができるよう徐々にすすめていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者それぞれの居室入り口や椅子に表札やわかりやすい目印を付けたり、トイレがわからない方には、わかりやすい表示をする等工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	横の畑の作物を見て季節を感じたり、玄関先にベンチを置いて、日向ぼっこや会話を楽しめるよう工夫している。周囲は交通量も少なく、いつでも車椅子で散歩して季節が感じられるようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
	<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input checked="" type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

住み慣れた地域の中で、利用者やその家族が無理なく安心して暮らせていけるよう努めています。もうしばらくすると開設まる4年を迎えようとしていますが、年々重度化して出来る事が少なくなってきました。その中でもその人らしい生活とは何かを求め、痛みのコントロールが出来て本人家族の意向があれば、ターミナルケアまで行っていきたいと思っています。